



題字・イラスト/金子伸子 デザイン/葉田いづみ 発行・編集・執筆
/宇野津暢子 協賛/玉川学園商店会、玉川学園南口商店会、玉川学園地区まちづくりの会 印刷/レトロ印刷jam
【お問い合わせ先】nu821@zj9.so-net.ne.jp Tel.090-3473-3872
*玉川つばめ通信27号は3100部印刷し、配布しています。

ごあいさつ
はなびら市、縮小ながらも無事開催！
昨年は新型コロナウイルスの拡大により、直前で中止になった3丁目こども広場の「はなびら市」。今年も中止か?!と半信半疑でしたが、なんとか3月27日に開催できそうです(今日は22日)。仕事と家事育児をこなしながらの急ピッチのイベント準備は大変ですが、久しぶりのおまつりにわくわく！ 飲食の出店は少なめに、十分距離を取りつつみなさまをお待ちしています。開催当日は天候に恵まれますように。桜が残っていますように。
玉川つばめ通信編集室 フリーライター宇野津暢子

玉川学園周辺で見つけた！
気になる
場所訪問



パリオのシンボルはイラストレーターで人形作家のイシイリュウウコさんが描いた「パリオバード」。イシイさんは中村さんの友人の娘さんだそう。

DATA
町田市森野1-15-13
☎042-725-3710
(月～土10:00～18:00)
営業時間…10:00～20:00

昨年未だにパリオで「玉川つばめ通信展」を企画していただいた際、社長の中村恵さんにお話を伺いました。パリオの看板の鳥に親近感を抱き続けている「つばめ」通信です。
〇老舗ビルの社長さんというから、もつとがっちりした方をイメージしてましたが、中村さんは華奢で、なんというか絵画から出てきた妖精のようですね。ふふ。そうですか？ わたくしは妖精なんてものじゃなく、好きなことを好きな

ようにやってきたおてんばタイプ。生まれ育ったのは町田の森野です。昔のパリオ周辺には高い建物なんて何もなくて、一面の原っぱでした。境川までもさえぎるものなく走っていったんですよ。
〇中村さんは映画や落語も大好き、とパリオのスタッフさんから聞きました。
はい、それは映画や落語好きだった父の影響。わたくしの子守唄は父の浪曲だったとか。歴史や世の中のことは全部映画から学びました。音楽も好きで3歳からピアノやバイオリンを習いましたが、とにかく楽譜通りに弾きたくなかったのよね。学校は小学校から大学まで玉川学園に通っていましたが、高校時代にはアメリカのイリノイ州サンフランシスコ、ロサンゼルス、ハワイをまわる留学にも行かせてもらってね。とても楽しくて、さあ帰国、となったときはどうしても帰りたくなくて隠れちゃったほどのな。

〇物凄いわたくしのお嬢さまのような……お父さまは何をなさっていたんですか？
父は不動産業を営んでいて、海老名や厚木周辺の都市開発に携わっていました。そんな父が「町田に住んでいるんだから、町田にビルがあってもいい」とパリオを開業したのが昭和50年。管理をまかされたのが兄とわたくし。当時のパリオは服飾店など多くのテナントが入るショッピングビルの先駆けだったんですよ。
〇まだ小田急百貨店や丸井もなかった頃、ですよ？
そうそう。その後丸井ができる、当初はパリオの4階が丸井の社員食堂だったので、お昼どきのパリオは丸井の社員さんで大賑わいでした。昔は5階に事務所があり、わたくしは窓からまちを行き交う人たちを眺めているのが大好きでね。兄には「いつも窓の外を見てばーっとして」なんて言われてましたよ。

〇2010年には生の落語が楽しめる『パリオde落語』、2015年にはライブレストラン「まほろ座」が開業。2017年には「まちだはまちだプロジェクト」もスタート。どんどん新しい取り組みにチャレンジしていますね。
晩年の父に「何したい？」と聞いたら、父は「若い人たちと一緒に学びたい。新しいことを教えてほしい」と言いました。

わたくしも父と同じ気持ちで、パリオは学びたい気持ちの発信基地、やりたいことをのびのびとまずやってみる場になるといいなと思っています。「まちだはまちだプロジェクト」ではパリオのスタッフたちが、まちと人がつながる魅力的な仕掛けを日々考えています。

〇昨年のコロナ禍では、テイクアウト情報や困りごとを助け合う掲示板が細かく載っているパリオ発信の掲示板、「43万人の情報局」まちだすけとがとも役に立ちました。今後、つばめ通信関連のイベントをするときにはパリオのレンタルスペースもぜひお借りしたいと思っています。これからも町田の中心的存在であるパリオを応援していきますね！
ありがとうございます。多くの方々にパリオをご利用いただけますように。



「大草原の小さな家」の主人公、ローラにもその佇まいが重なる中村恵さん(70)。小柄だけれどバイタリティ溢れる憧れの女性です。



パリオとはラテン語で「何かをここから生み出す」という意味。開業は昭和50年10月10日。新しい文化の発信拠点である町田パリオがこの建物のまま、この場所に長くあり続けますように。

訪問後記

1990年頃、「横浜のチベツト」と呼ばれていた横浜の鉄町の高校に通っていた私にとって、パリオ2階の「ジョップイン」は、二子玉川のソニープラに匹敵するおしゃれスポットでした。店内には私服でおしゃれな玉川学園の女子高生が多く、比べて私の制服はダサすぎ！と思っていた30年前、パリオのスターバックスコーヒーに座ると、ここがかつてジョップインだったこと、そして「おしゃれしたい！」と強く思っていた私の青春時代を思い出します。